

- 10 【主】はさらにアハズに告げられた。
- 11 「あなたの神、【主】に、しるしを求めよ。よみの深みにでも、  
天の高みにでも。」
- 12 アハズは言った。「私は求めません。【主】を試みません。」
- 13 イザヤは言った。「さあ、聞け、ダビデの家よ。あなたがたは人々を煩わすことで  
足りず、私の神までも煩わすのか。」
- 14 それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が  
身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。
- 15 この子は、悪を退けて善を選ぶことを知るところまで、凝乳と蜂蜜を食べる。
- 16 それは、その子が悪を退けて善を選ぶことを知る前に、あなたが恐怖を抱いている  
二人の王の土地が見捨てられるからだ。
- 17 【主】は、あなたとあなたの民とあなたの父の家に、エフライムがユダから離れた  
日以来、まだ臨んだこともない日々をもたらす。それはアッシリアの王だ。」

【 申命記 】

- 6 : 16 あなたがたがマサで行ったように、あなたがたの神である【主】を試みては  
ならない。

【 ヨハネの福音書 】

- 1 : 1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
- 1 : 14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を  
見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みと  
まことに満ちておられた。

\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2020年 11月 22日 (日)

礼拝メッセージノート

「 イザヤ書から見るメシアの受肉 」

| クリスマス-① イザヤ書7 : 1-17 他 小野寺 望 牧師

【 イザヤ書 7章 】

- 1 ウジヤの子のヨタムの子、ユダの王アハズの時代、アラムの王レツインと、  
イスラエルの王レマルヤの子ペカが、戦いのためにエルサレムに上って来たが、  
これを攻めきれなかった時のことである。
- 2 ダビデの家に「アラムがエフライムと組んだ」という知らせがもたらされた。  
王の心も民の心も、林の木々が風に揺らぐように揺らいだ。
- 3 そのとき、【主】はイザヤに言われた。「あなたと、あなたの子シェアル・  
ヤシュブは、上の池の水道の端、布さらしの野への大路に出向いて行ってアハズ  
に会い、
- 4 彼に言え。『氣を確かに持ち、落ち着いていなさい。恐れてはならない。あなたは、  
これら二つの煙る木切れの燃えさし、アラムのレツインとレマルヤの子の燃える  
怒りに、心を弱らせてはならない。
- 5 アラムは、エフライムすなわちレマルヤの子とともに、あなたに対して悪事を企て  
て、
- 6 「われわれはユダに上ってこれを脅かし、これに攻め入ってわがものとし、  
タベアルの子をその王にしよう」と言っているが、
- 7 【神】である主はこう言われる。 それは起こらない。それはあり得ない。
- 8 アラムのかしらはダマスコ、 そのダマスコのかしらがレツインだから。  
——エフライムは六十五年のうちに、 打ちのめされて、一つの民では  
なくなる——
- 9 エフライムのかしらはサマリア、 そのサマリアのかしらがレマルヤの子  
だから。 あなたがたは、信じなければ 堅く立つことはできない。』」  
(4ページへ続く)

## ◆ はじめに

### | コロナ禍で迎えるクリスマス

- (1) 新しい生活様式の下で過ごす（第3波流行。リアルイベントの自粛）
- (2) 人々の期待はむしろ新年に対して大きくなっている？（牧師の個人的実感）
- (3) クリスマスの真の目的：救い主が受肉し、神が介入されたことを喜ぶ。

\* 救い主の誕生という歴史的な出来事のお祝いであることを発信し続ける。

## ◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | 「受肉」からメシアを味わう

\* このメッセージは、処女降誕の預言と受肉の事実について学ぶものである。



## I イザヤ7章の文脈

### 1. ダビデの家系を脅かすアッシリア帝国の台頭

- (1) 7：1～2 ①シリア（アラム）、北王国イスラエル（エフライム）は手を組み、さらには南王国ユダも取り込んで、アッシリア帝国に対抗しようとする。

②ユダのアハズ王はそれを拒否した。イスラエルとシリアは共謀して、アハズを王位から引き下ろし、さらに、ダビデ家を王座から引き下ろそうとした。これはダビデ契約に対する挑戦である。

- (2) 7：3-9 ①アハズは偶像礼拝者であり、この状況を非常に恐れていた。

②イザヤは息子を連れて、籠城に備えて水源を探す王に会いに行くように命じられる。

③子の名はシュアル・ヤシュブ（「残れる者は帰って来る」の意）

④アハズ王を引き下ろそうとする陰謀があるが、恐れるなど励ます。

- (3) 7：10～ ①まことの神でなく、自力で事態の解決を図ろうとするアハズに、神は「しるしを求めよ」と呼びかける。

（つまり信仰を持って求めれば何でも叶えようと言っている）

②呼びかけを拒否する（12節）。偶像礼拝者が急に霊的になったように見えるが、実際は申6：16の誤用。

③本心は、もし認めてしるしを求めたなら、アッシリアとの同盟を破棄せざるを得ないという恐れがある。

### 2. 預言の構造

- (1) 二種類の呼びかけ：①11,16,17節「あなた」（アハズ王）

②13、14節「あなたがた」（ダビデ家全体）

③両者に呼びかけた預言に、素晴らしい便りが隠れていた。

アハズ王（正式名称はエホアハズ）：前732年から16年間統治（2列16章）

「エホ」（ヤハウエ）が抜けて書かれたのは、筆者に対する聖霊の導き。

※ マナセ王：前697年から55年間統治（2列21章）

どちらも偶像礼拝者であり、悪王に括られる。バビロン捕囚を決定的にした。

## II 受肉の予告

### 1. 処女降誕

(1) 「見よ」；注目させる呼びかけ。これがヘブル語文法的には「現在分詞」と共に使うときには、常に未来の事を指す。「その子」の成長も、「男の子」受胎も。

(2) 「処女が身ごもっている」：「処女」には定冠詞が付き、それが何を指すかはその前のことばを受ける（前回参照の原則）。しかし、該当の単語が無い場合はさらに遡ると、創世記3：15（原福音）の「女の子孫」に当たる。

※ 因みに、15、16節の「その子」はアハズへの希望を示す預言であり、遡ると3節のイザヤの息子と同じ子を指していることになる。

(3) メシアの受肉は、人間の父親なしの処女降誕によって実現する。

## III 受肉の成就

### 1. ヨハネ1：1、14

(1) 内に神の栄光（シャカイナ・グローリー）を秘めたお方が、民の真ん中に（幕屋のように）住んでくださった。

### 2. ルカ1：26～38、2：5～7

(1) イエスはマリヤから人性を得た。

(2) マリヤの罪性は聖霊によって断ち切られた。「聖なる者」「神の子」と呼ばれる。

### 3. ピリピ2：6～8

(1) これは原始教会で歌われた賛美歌といわれる。

(2) 「神の似姿である方」「ご自分を無にして」「人間と同じように」

\* 神性の否定ではない。メシアは完全に二つの性を持たれた。

## ◆ まとめ：「受肉」からメシアを味わう

(1) 用語について

①「受肉」（インカーネーション）ということばは聖書にはない。

②しかしその概念は以下の箇所にある・・・ヨハ1：14、1ヨハ4：2、ロマ8：3

③メシアの「受肉」は昇天後も残る。受肉を伴う降誕物語は、むしろメシアにとっては「辱め」と理解することが相応しい。

(2) 受肉の必要と神の愛

①神を啓示するため ②真の人間性を掲示するため ③罪の贖いのため

④ダビデ契約を成就するため ⑤悪魔のわざを壊す（1ヨハ3：8）

⑥思いやりのある大祭司となるため（ヘブ4：14～16）